

# こんなことやってるよ



## Hakuba SDGs Lab

～白馬の美しい自然と多様なコミュニティを次世代に引き継ぐ～

### ♣ 白馬村の魅力と危機

北アルプスの麓に 9,000 人が暮らす白馬村。登山から民宿文化が生まれ、スキーブームとペンションブーム、さらには長野五輪で一躍その名が全国に知れ渡り、最近ではパウダースノーを求めて海外からの来訪者が増えるなど、圧倒的な大自然に魅了されたリピーターや移住者がどの時代にも途切れません。

しかし、地球温暖化の進行とともに、白馬村の根幹を成す自然環境が危機的な状況になりつつあります。雪は減り、夏は暑く、地下水や生態系の変化を肌で感じています。

### ♣ Hakuba SDGs Lab を設立

「白馬村の唯一無二の財産である自然環境を私たちの世代が壊しているのではないか」、そんな想いから、2019年に Hakuba SDGs Lab (白馬 SDGs ラボ) を設立しました。

発起人であり共同代表を務める私たちも白馬の美しさに魅了された移住者ですが、幅広い世代・多様な人々とつながりながら持続可能な地域づくりを学び実践することを意識しています。組織として会員制度を設けず、「できる人が、できる時に、できる分だけ」という考えで、負担を強いずに参加や関与の敷居を下げることも心がけています。

SDGs に取り組んでいる白馬高校や白馬中学校の生徒たちにも、参加者ではなく企画運営側の役割を担ってもらっており、それが生徒たちの主体的な活動につ

ながっています。

SDGs は幅広い分野で目標を定めていますが、経済・社会を成り立たせるためにも土台となる環境がしっかりしていなければなりません。多くの方々に気候変動について関心を持っていただくために、白馬高生による気候マーチや気候難民のためのチャリティバザー、白馬高校の教室の断熱改修 DIY、映画の上映会や勉強会、企業や団体での講演など、様々な活動をしてきました (写真)。

### ♣ 一人の百歩より百人の一步 正論よりも楽しさを

地球環境という規模の大きな課題に立ち向かうとき、一人ひとりができることは小さく、自分だけ取り組んでも意味がないのではないかと考えがちですが、そうした一人ひとりの意識や行動が今の状況につながっていると思います。

一人の百歩より百人の一步。でも無理強いせず、正論よりも楽しさを。一緒に活動している高校生と大切にしてきた考え方です。

地域を愛する住民や、国内外にファンがたくさんいる白馬村だからこそ、日本や世界に率先して取り組んでいくことに意義があり、その先にこそもっと素敵な白馬村があると信じています。地球に負担をかけずに美しく暮らし、迷ったら将来世代のための選択をする。エネルギーも経済も人々の幸福も循環するような地域を目指して、これからも活動を続けていきたいと思っています。

(共同代表 草本 朋子・渡邊 宏太)



写真1. グローバル気候マーチ in 白馬

約 120 名が参加し、気候非常事態宣言を求める署名を高校生が村長に手渡しました。(2019年9月)



写真2. 白馬高校断熱改修ワークショップ

大学教授や工務店の指導のもと、高校生と地域住民と一緒に壁や天井裏に断熱材を入れる作業を行いました。(2020年9月)

